

The 2 Chome Times 2025年 2月号

NO1のプレミアムストリートをめざして

NO321号

2025年・2月・25日



発行 神戸三宮センター街2丁目商店街振興組合 (tel331-3091) (fax333-8591)

2丁目タイムス 2月号

編集：企画・商業振興部、編集長：井上晶雄 <http://www.centergai2.com> E-mail:centergai2@nifty.com

フェイスブックでも発信しています <https://www.facebook.com/centergai2/>

2丁目目でKOBE Free Wi-Fi ご利用いただけます

★「ガラスの祈り-石川県能登島ガラス美術館名品」展

阪神・淡路大震災30年 能登半島地震復興支援特別企画～「ガラスの祈り-石川県能登島ガラス美術館名品」展が1月26日まで六甲アイランドにある神戸ファッション美術館で開催



樹海

され、鑑賞して来ました。能登島ガラス美術館に収蔵されている中国清朝時代の工芸作品から現代アートまで、30点が展示されていました。勿論、私共のストリートミュージアムにも収蔵されているやはり石川県の扇田克也先生の作品「HOUSE/RAIN」と「A HUNDRED

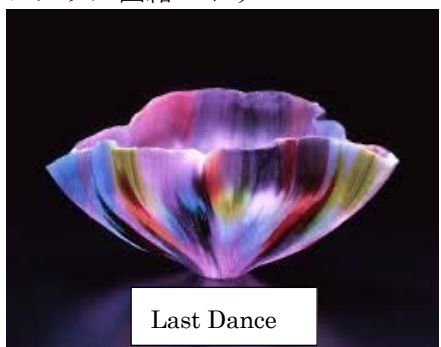


border/seed of moon

HOUSE s 202Q/EQ1.1" の2点も展示されていました。他の作家さん

も第一線級の作家さんばかりで、例えば佐々木雅浩氏の「樹海」は表現するのが難しいながら、アメーバーを想像させる形状をしており、有機的な表情を作品に取り入れたもので、大変ユニークであり、その形にも色合いにも大変興味を引かれました。上前功夫氏の「border/seed of moon」は古くより憧憬の対象であった月をテーマにしており、作品は月の表面を想像させ、半透明で、覗いている者の視線を表面から内部に向かって導き、ちょっとした視覚の混乱を覚えさせるような感覚になりました。興味深いのは作品の素材がブラウン管の再生品だったところでした。

アメリカ国籍のトゥーツ・ジンスキー氏の作品、「Last Dance」は形状が歪んだ花瓶のようでもあるが、



Last Dance

色彩が素晴らしい。作者はアフリカでの強烈な色彩体験を経て、作品に華やかで、抽象画の様な色彩表現を取り入れています。そして小林貢氏の「芽吹くころ」(When the Buds bloom)は切断された幹から新しい芽が生まれ、伸びていくような様が透明なガラスで表現されています。制作年が1984年なのですが、地震と豪雨でズタズタになった能登地方が新しく生まれ変わる様を示唆しているのかと思わせる印象がありました。

最後にもう一つ印象に残った作品は藤田喬平氏の飾管(かざりばこ)シリーズの「紅白梅」という作品で、平安時代に見られるような美しい装飾の施された六角形状の管なのですが、とてもガラスで出来ているとは思えない素晴らしい作品でした。

今回、見逃された方は現在、休館中の石川県能登島美術館が再開される折には足を運んででも観る価値は高いですから、是非ご覧になって下さい。 石川県能登島ガラス美術館 HP : nanao-af.jp

★名桜大学のボランティアさん来神

夢未来号では毎年子供さん達が沖縄を訪問していますが、その際に子供さん達のアテンドを沖縄の名桜大学の学生さんをお願いし、ボランティア活動としてご協力を頂いております。そのボランティアに実際に参加された名桜大学2年生のお二人、高橋拓人さんと福知未悠さんが神戸に来られました。目的は神戸の児童養護施設で暮らしている子供さん達が実際にどの様な生活をしているのかを肌で感じ、少しでも彼ら

の気持ちを知り、これからの活動に生かすためです。そのため児童養護施設の一つである白百合学園で宿泊し、子供さん達とバスケットボールなどの活動を通じて子供さん達との共同生活を楽しみました。写真は沖縄の作家大嶺實清先生の作品「ブルーニライ」の前でのものです。

高橋さんの感想は「多くの子供さん達と通じ合うのは難しいのかなと思ったけれど、バスケットボールでコミュニケーションが深まり、子供さん達との絆が築ける事を再確認しました」とのことで、福知さんの感想は「神戸という沖縄からは遠い土地で沖縄に想いを馳せて下さる方々が増えているのを感じ、嬉しく思いました」というものでした。彼らは今後大学を卒業し、その後に社会人として長い人生が続きますが、この交流を通じて得たものが彼らの人生、そして沖縄と神戸の関係性の両方に役立てば嬉しい限りですね。



★目指すは3連覇！ヴィッセル神戸の選手たちが商店街にやってきました

昨シーズン、天皇杯で優勝、J1リーグ2連覇という偉業を達成したヴィッセル神戸。2月15日から2025



年シーズンの開幕を迎えるにあたり、神戸三宮の街に現役選手からゴールキーパーの新井章太選手、昨年デビューされたミッドフィルダーの山内翔選手の2人が訪れ、街の皆さんと交流をしながら、応援のお願いにいられました。三宮センター街2丁目では、



ストリートミュージアムを楽しみながら散策し、マイスター大学堂、マウンテンコーヒー、毛利マークなどのお店に訪れ、選手自らポスターを貼り出しました。移動中もサポーターさんたちに声をかけられ、連覇を成し遂げ、人気もさらに広がっているようです。3連覇に向けて、商店街からも応援していきましょう！



Vamos！ヴィッセル神戸！

★編集後記

埼玉県で道路陥没事故が発生し、残念ながら未だに運転手の方は救出されていません。一刻も早い解決を願っていますが、その完全修復には数年掛かると予想されています。兵庫県として他人事ではなく、神戸市では2月3日から1週間程度をかけてマンホールの蓋を開けて内部を調べたようです。神戸市は污水管路が総延長で4160kmあり、大口径管路(2,000mm以上)のうち、コンクリート製管路の16.9kmにつき、重点的に調べ、具体的には下水道の上を通る道路の表面にひび割れなどができていないか目視で確認したほか、マンホールの中に職員が入って内部の状態を確認したり、レーダーを搭載した特殊な車を走らせて、道路の下に空洞がないか点検した模様です。

高度最長にインフラが整えられてから、50年以上が経過しており、どこで今回のような崩壊が起きても不思議はない状況で日頃の検査が重要な役目となります。またこのタイムズでもご紹介していますが、2丁目振興組合でもアーケードの維持管理には神経とお金を使っており、万が一の不備による事故が起こらない様にしています。人間でも年に一回の定期健康診断は欠かせません。皆様も日頃の体のケアに気を付けて頂くと共に、2丁目組合の検査・取り組みにもご理解とご協力を御願い申し上げます。



美しい街 共に歩む ビルメンテナンス

つるかめ管財株式会社 078-371-3589

